HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	小特集　どう活かす，電子書籍 ： ～ウェブメディアで拓く科学技術コミュニケーション～
Citation	科学技術コミュニケーション，9，1-1
Issue Date	2011-06
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45788
Type	other
File Information	JJSC9_000.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

小特集　どう活かす，電子書籍

～ウェブメディアで拓く科学技術コミュニケーション～

昨年2010年は，日本では「電子書籍元年」と言われた．直接のきっかけは，タブレット型コンピュータや専用リーダーなど，電子書籍を読む装置が相次いで売り出されたことである．そして，これら具体的なモノの登場が刺激となったのであろう．出版産業や本，さらには読む行為そのものの未来を占う議論が，かつてないほど活発に交わされることになった．

こうした中，北海道大学CoSTEPでも，「どう活かす，電子書籍～ウェブメディアで拓く科学技術コミュニケーション～」と題したシンポジウムを，今年3月13日に開く予定であった．ところが，直前に大震災とそれに伴う原発事故が発生し，シンポジウムは中止せざるをえなくなった．

この小特集は，当日登壇予定だった内田麻理香氏，岡本真氏，佐藤健太郎氏，杉山滋郎氏に，「どう活かす，電子書籍」のテーマで改めて寄稿していただき，いわば誌上シンポジウムを展開したものである．科学技術コミュニケーションや学術情報流通の最前線で活動される4氏に，電子書籍などデジタルメディアのトレンドの本質や，それが科学技術コミュニケーションに与えるインパクト，科学技術コミュニケーションの視点からの電子書籍へのアイデア，提案などを論じていただいた．

ちなみに本誌では今号から，掲載記事をめぐるディスカッションをウェブ上で行うことのできる，著者と読者の交流ページ（http://www.facebook.com/jjsc.jp）を開設する．本小特集に関しても，本来はシンポジウムで4氏の報告の後に続くはずだった意見交換の場として，この交流ページを活用していただけたら幸いである．

日本で昨年，一つの社会現象ともなった電子書籍．この新たなメディアは，科学技術コミュニケーションの実践や研究に，どんな可能性や課題をもたらすのであろうか．そうした議論の扉が，この小特集をきっかけとして開かれることを願っている．